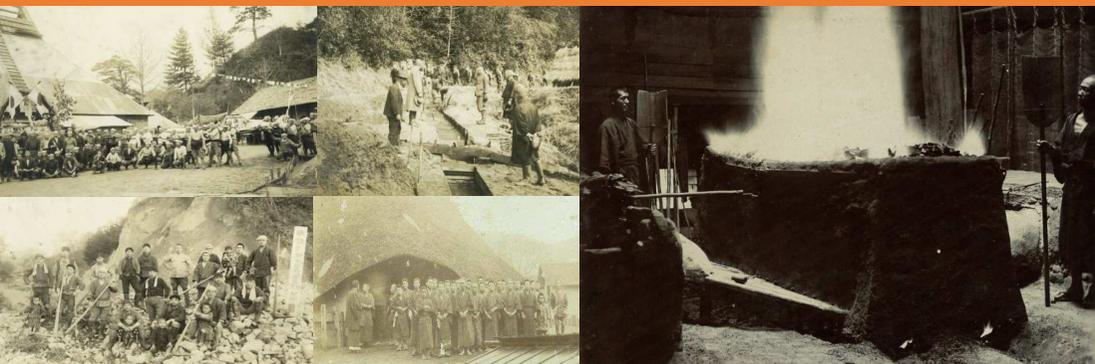




—たたら製鉄の歴史を刻む— 奥出雲の棚田景観



奥出雲町のたたら製鉄を背景とする文化的景観の価値と特徴

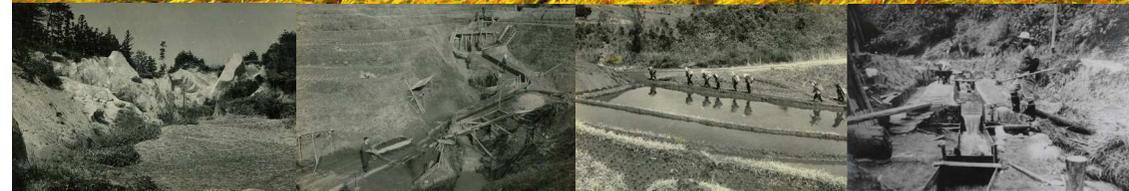


文化的景観とは、生活の中に溶け込んでいる身近なもので、認識されにくく見過ごされがちな存在なのです。しかしながら、身近な景観をつぶさに見渡すと、そこに地域のアイデンティティが刻み込まれ、先人たちの記憶を鮮明に映し出していることに気が付きます。

奥出雲町は出雲国風土記に良鉄の産地と記されて以来今日もなお「たたら製鉄」が操業され、実に千数百年に渡り連綿と炎が舞い上がり続け、我が国の一大生産地帯として隆盛を極めました。

たたら製鉄は砂鉄の採取、森林の伐採など、自然破壊の歴史と捉える向きもあります。砂鉄採取は、山を大規模に切り崩し水流によって比重選鉱する「鉄穴流し」という独特な手法で行われ、これが数百年間にわたって全町的に営々と稼業されました。しかし、ただ単に山を切り崩して自然を破壊したわけではありません。自然の恵みである砂鉄を採取した跡地は荒廃させることなく豊潤な棚田に姿を変え、広大な農業基盤として復元していきました。また、山林資源は無秩序な伐採をせず、たたら製鉄が永続操業できるよう約30年周期で輪伐しながら保全しました。

このように、たたら製鉄とともに生きた先人たちの記憶を紡いで映しだされる奥出雲の文化的景観は、自然環境と共生し、永続的に循環させるという、人と自然が織りなす世界に類例のない究極の景観を形成しました。



【お問合せ】 〒699-1832 島根県仁多郡奥出雲町横田 1037 番地
奥出雲町教育委員会社会教育課
TEL0854-52-2680 FAX0854-52-3048
E-mail : shakaikyouiku@town.okuizumo.shimane.jp

天平5年(733)に編纂された『出雲国風土記』の仁多郡の条に、「諸郷より出すところの鐵堅くして、尤も雜の具を造るに堪ふ」と本地域で産する鉄の優秀性が記されています。以来、営々と砂鉄を採り、炭を焼き、そして“たたら”を吹き続けてきました。

今日、砂鉄採取のため鉄穴流しではがされた奥出雲町の大地は、黄金に輝くいなたに生まれ変わりました。これが、「奥出雲たたら製鉄及び棚田の文化的景観」なのです。

